

令和6年度（2024年度）

阿蘇圏域災害対応机上訓練について

令和7年（2025年）3月4日（火）

阿蘇保健所

目次

- (1) 目的、目標（ねらい）
- (2) 開催日時、場所
- (3) 参加者
- (4) 内容
 - ① 講話
 - ② オリエンテーション
 - ③ 机上訓練
 - ④ 意見交換、講評
- (5) アンケート結果
- (6) まとめ

目的

熊本地震から8年が経過し、行政等においては人事異動等により震災経験者が減少している中、令和2年度から令和4年度には新型コロナウイルス感染症の影響で会議や訓練、研修会が中止され、災害時における対応力の低下が懸念される。



行政や災害拠点病院、その他関係機関で災害対応の机上訓練を実施し、発災時の対応力を強化するとともに、連携における課題等を共有することで、各関係機関間の連携体制の強化を図る。

目標(ねらい)

- (1) 市町村が災害時の初動対応について理解する。
 - (2) 災害初動期に起こりうる状況を疑似体験し、今後の各所属における体制整備・人材育成につなげる。
- ※阿蘇地域中堅期保健師研修を兼ねて開催。

開催日時、場所

○日時

令和6年（2024年）11月11日（月）

14:00～16:30

○場所

阿蘇医療センター

1階 講堂



参加者

- ・市町村（保健衛生部門及び防災部門の職員）
- ・地域災害医療コーディネーター
 - 阿蘇医療センター：甲斐院長、
 - 小国公立病院：片岡病院事業管理者
- ・阿蘇郡市医師会
- ・阿蘇郡市薬剤師会
- ・阿蘇医療センター
- ・阿蘇広域行政事務組合消防
- ・阿蘇地域振興局総務振興課
- ・阿蘇郡市歯科医師会
- ・熊本県看護協会阿蘇支部
- ・小国公立病院
- ・阿蘇保健所

※見学者

- ・阿蘇地域リハビリテーション広域支援センター
- ・熊本県介護支援専門員協会阿蘇支部
- ・警察（阿蘇、高森、小国）
- ・県職員

計55名の出席

内容①講話

○テーマ

「能登半島地震対応・珠洲市の二次避難支援」

○外部講師

国立病院機構本部

DMAT 事務局・福島復興支援室 小早川 義貴 氏

【略歴】

2004年島根医科大学を卒業後、島根県立中央病院救命救急センター等を経て、国立病院機構災害医療センターにおいて災害医療に従事されている。厚生労働省災害派遣医療チーム（DMAT）の教育・研修の他、福島県の復興支援を行っている。



内容②オリエンテーション

○グループ分け

市町村デスク A
南小国町 阿蘇市 南阿蘇村

市町村デスク B
南小国町 産山村 高森町 西原村

行政デスク
阿蘇地域振興局 (総務振興課) (保健福祉環境部)

医療機関デスク
阿蘇医療センター 小国公立病院

サポートチームデスク
医師会 歯科医師会 薬剤師会 看護協会 消防

**A、Bチームそれぞれ違う対応になって構いません。
違うことから気づくこともあるので、あとで振り返りましょう！
自由に、楽しんで考えてください！**

内容②オリエンテーション

○被災想定

- ・南小国町で大雨による災害が発生。

11月11日 未明から大雨。避難指示が発令し、町内3か所（りんどうが丘小学校、中原小学校、役場内きよらホール）に避難所を開設。

職員安否確認済み：年休で自宅待機職員は3名。出勤している職員のうち2名は外出中。役場に戻っている途中とのこと

庁舎被害状況確認済み：特に被害なし。役場周辺の道路は冠水し、行き来ができない状況。

- ・市町村災害対策本部とADRO本部が設置された。

○役割

- ・市町村デスク→南小国町職員の立場で参加。
- ・市町村以外のデスク→自所属の立場で参加。

内容②オリエンテーション

○訓練の進め方

デスクに状況付与カードが渡される。



クロノロに、受け取った情報を記載。
デスク内で対応を検討する。



関係機関に情報提供や支援の依頼等を行う
場合は、相手がいるデスクに行き実施する。



市町村 チームから連絡を受けたその他のチーム
は、自所属における 対応を検討し、対応する。

内容③机上訓練

11月11日（月）14時00分

大雨特別警報 緊急安全確保 発令

阿蘇地域振興局に地方災害対策本部設置
同時に

阿蘇保健所に保健医療調整現地本部
＝ADRO自動設置

対応開始！

内容③机上訓練

状況付与カード⑦

【From: 保健所】

【To: 医師会、薬剤師会、歯科医師会】

診療所（歯科含め）、薬局の被災状況、わかり次第教えてください。
特に小国地域の状況を教えてください。

状況付与カード⑱

【From: りんどうヶ丘小避難所】

【To: 町保健本部】

避難中の旅行客が、「明日透析の予定だったが帰れないだろう、
どうしたらいいか」と言ってるが、
どうしましょう。

内容③訓練



リーダー、サブリーダー、
記録係、連絡員の役割分
担を行い、クロノロを書
きながら対応

市町村A
(南小国町、阿蘇市、
南阿蘇村)

市町村B
(南小国町、産山村、
高森町、西原村)



内容③訓練



医療機関デスク
(阿蘇医療センター、小国公立病院)

サポートチームデスク
(医師会、歯科医師会、薬剤師会、
看護協会、消防)

途中、各デスク
にて対応状況の
整理と活動方針
の検討を実施。



内容④意見交換、講評

○意見交換

- これまで育休中などで災害対応を経験したことがなかったため、よい機会となった。
- 机上だが緊張感をもって災害時にどう動くといいのかをイメージすることができた。
- とても情報量が多く、処理が大変だった。
- 保健所の動きが防災担当として分かっていなかったが、A D R Oなどの動き方や情報収集する機関があることが分かり、心強いと感じた。
- 大きな災害が起きた場合は、自分たちの動きも確認しながら、周りの動きも見て、平時からどういう動きをした方がいいのかを検討していくことが大切だと思った。



内容④意見交換、講評

○講評

- ・急性期には長時間労働せざるを得ない。中長期も乗り切れるよう、リーダーが疲弊している職員の働き方を把握し、調整することがとても重要。
- ・実際の災害時には、情報が全くこないフェーズもあるため、本部が活動方針をしっかりと明記して、情報のない中でも対応していく必要がある。
- ・保健師が災害対応しながら職員向けの産業保健師まで手が回らないため、自治体全体で考えてほしい。

平時から産業医などとコミュニケーションをとったり、安全衛生委員会で災害の対応について話し合っておくと良い。

発災以降、県地域振興局、管内市町村の職員たちの多くが「過重・長時間労働」の状態にあった（ある）

九州豪雨 過労死線以上の復興 7月300人超、被災職員165人 被災5市町村

会員限定有料記事 毎日新聞 2020年9月3日 西日本版

自然災害 オッショイ！九州



7月の九州豪雨で甚大な被害が出た熊本県南部の主な被災自治体5市町村で、7月の残業時間が月100時間の過労死ラインを超えた職員が計300人以上に上ることが毎日新聞の取材で明らかになった。8月以降改善されてきたものの、自らも被災する中、膨大な量の復旧業務に追われる自治体職員の疲労は限界に達しつつある。4日で豪雨発生から2カ月になるが、他自治体からの応援も十分とはいえず復興の遅れが懸念される。

被災した農地の調査をする産業保健師の地下光愛さんー熊本県球磨村沖原で2020年9月1日、浅野雄太郎撮影

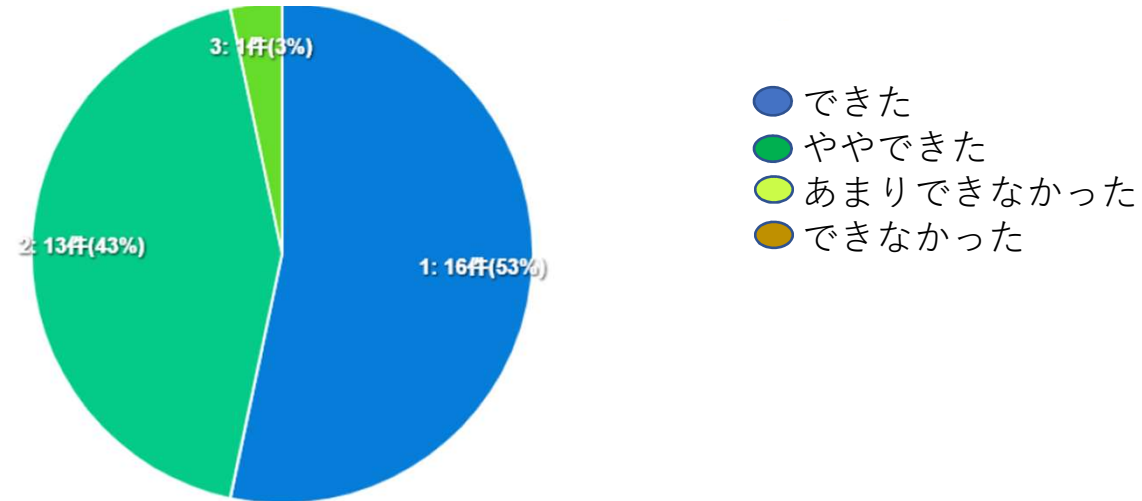
災害時には、自治体職員が健康に働き続けることで被災住民の支援を十分に行うことが出来、結果的に「地域の復興」の源となるはず

↓

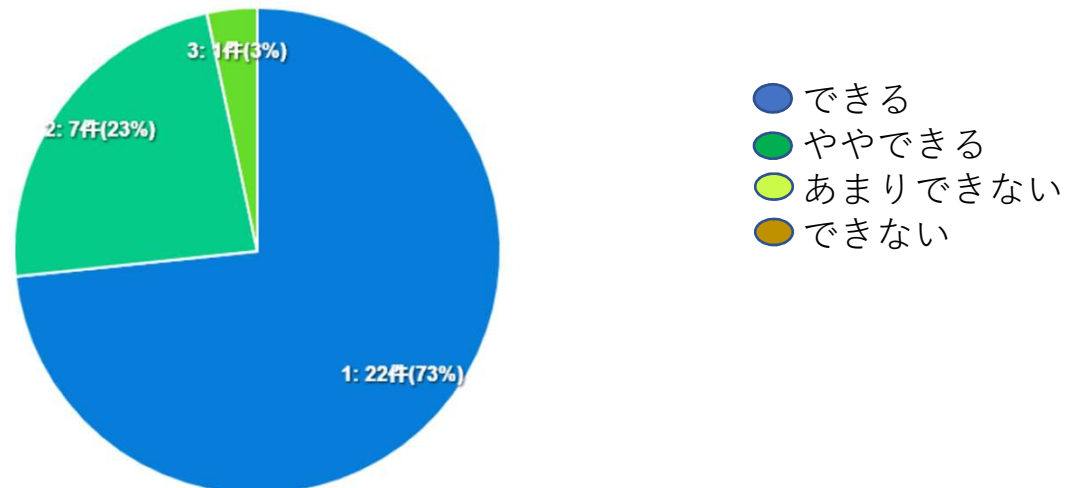
しかし、住民優先で、職員の健康管理は後回しになりがち。また、概して小さな自治体の産業保健体制は脆弱である

アンケート結果

災害初動期の対応について、理解できましたか。



各所属内における平時からの準備（マニュアル整備、研修等）に活用できそうですか。



アンケート結果

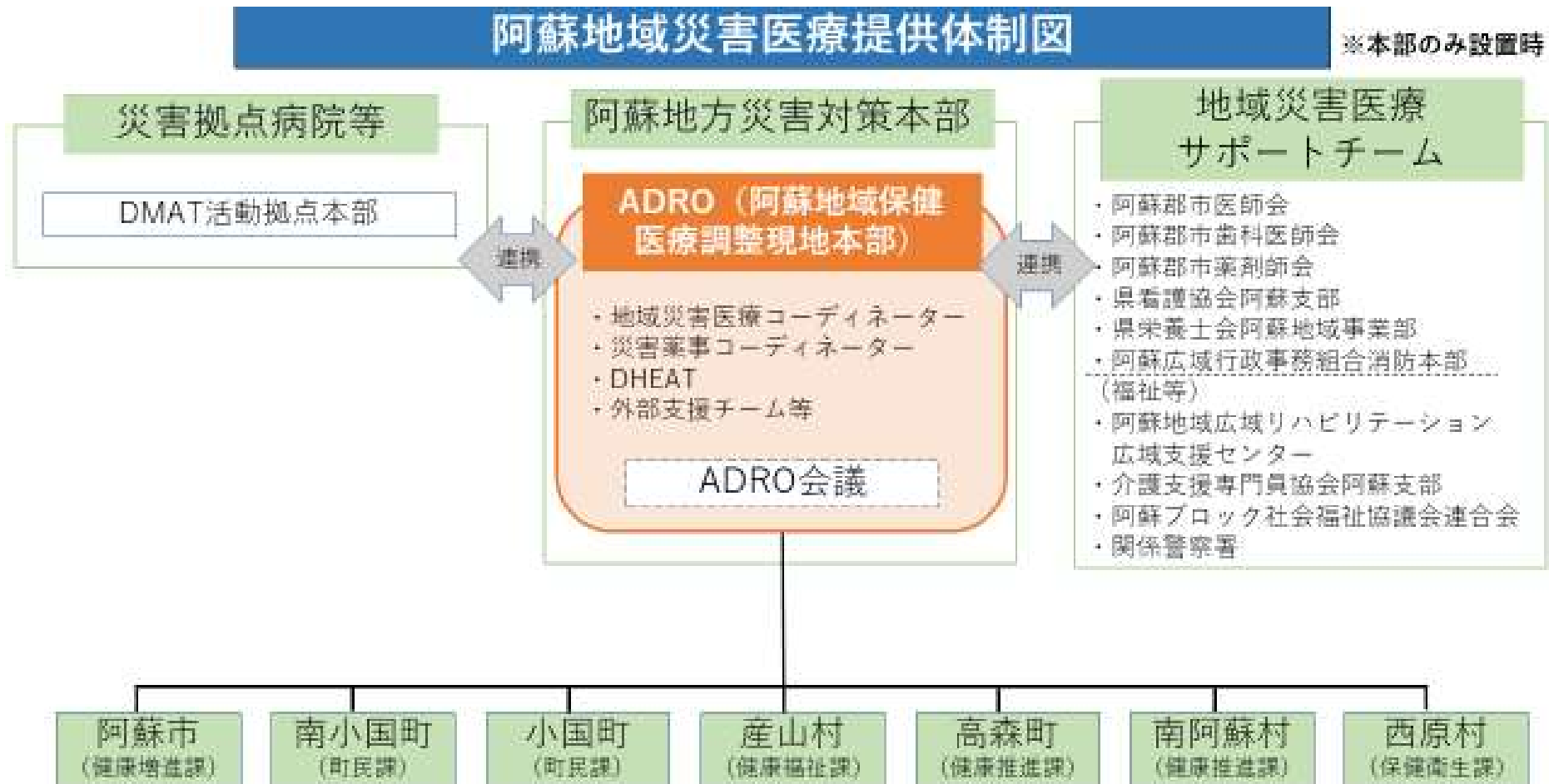
- 現実にとっても近い内容だったと感じています。また各所、顔の見える関係もでき、災害時には安心して取り組めると思います。想定外があっても相談しやすくなります。
 - 災害発生時に関係機関や職能団体がどういう動きをしているか、どう連携をとっているかわかりました。これを元に私どもの団体の動き方、連携方法の参考にしたいと思います。
 - 災害で発生する問題の多さと、それに対応する大変さが分かり、備えとBCPの重要性を再認識しました。
-
- ▲自機関の状況はつかめたが、いざ対応が始まるとそのことに精いっぱい、他の機関の動きがどのような状況なのかももう少し知りたかった。
 - ▲実際は市町村の体制に合わせてやっていかななくてはいけないから、初めて体験した人たちが、このやり方しかできない！と、思わないように各々のやり方をレクチャーしていくことが必要かと思いました。

まとめ

- 阿蘇地域の行政や保健医療福祉関係機関が集まり、災害初動期に起こりうる状況や対応について理解することができた。
 - 平時から必要な準備を十分にしておくことの重要性を再確認できた。
- 関係機関の役割や対応を知るとともに、顔の見える関係性づくりにもつながった。
- 職員の健康管理の重要性について共有できた。



(参考) 阿蘇地域災害医療提供体制図



(参考) 阿蘇地域災害医療提供体制図

